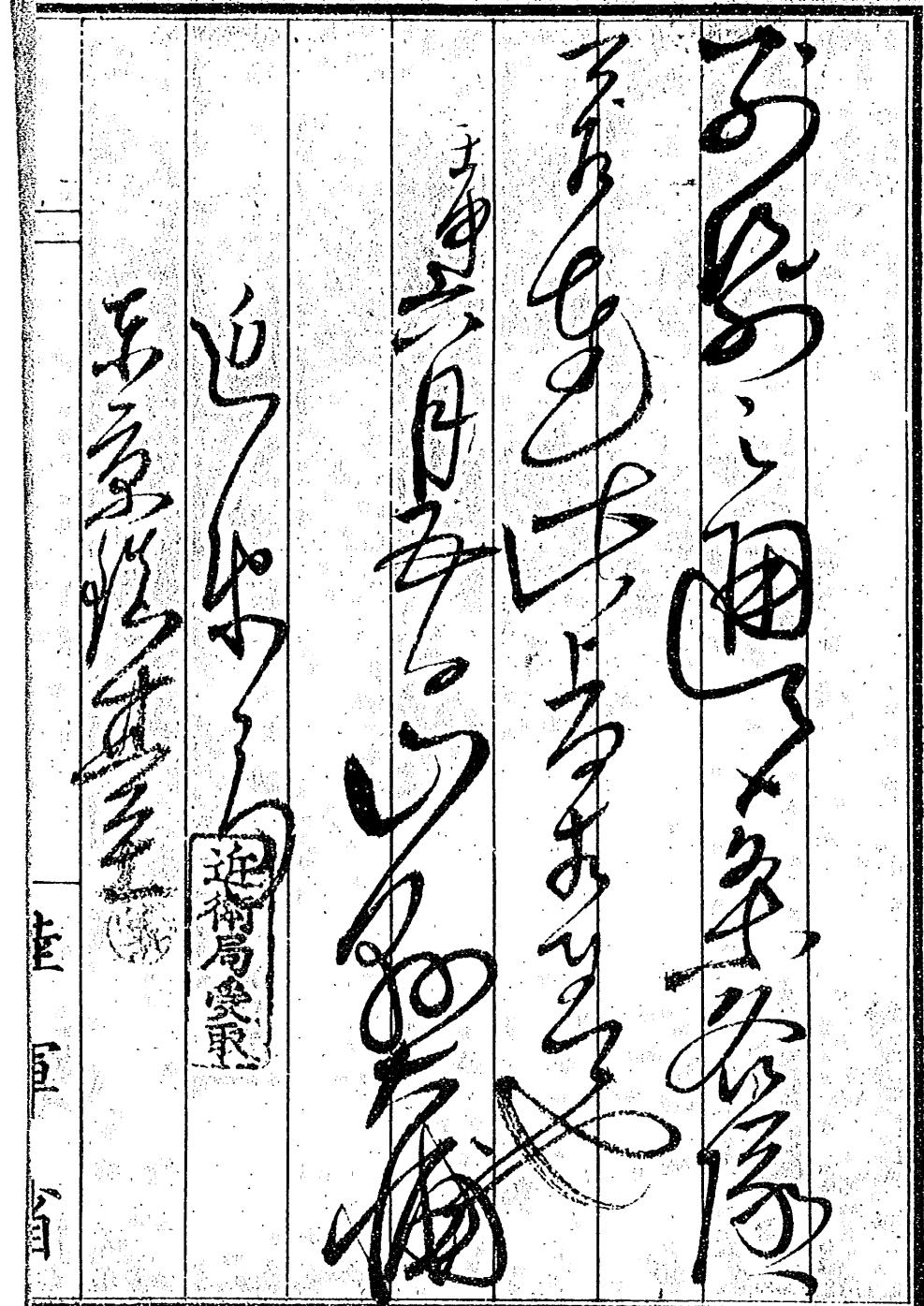
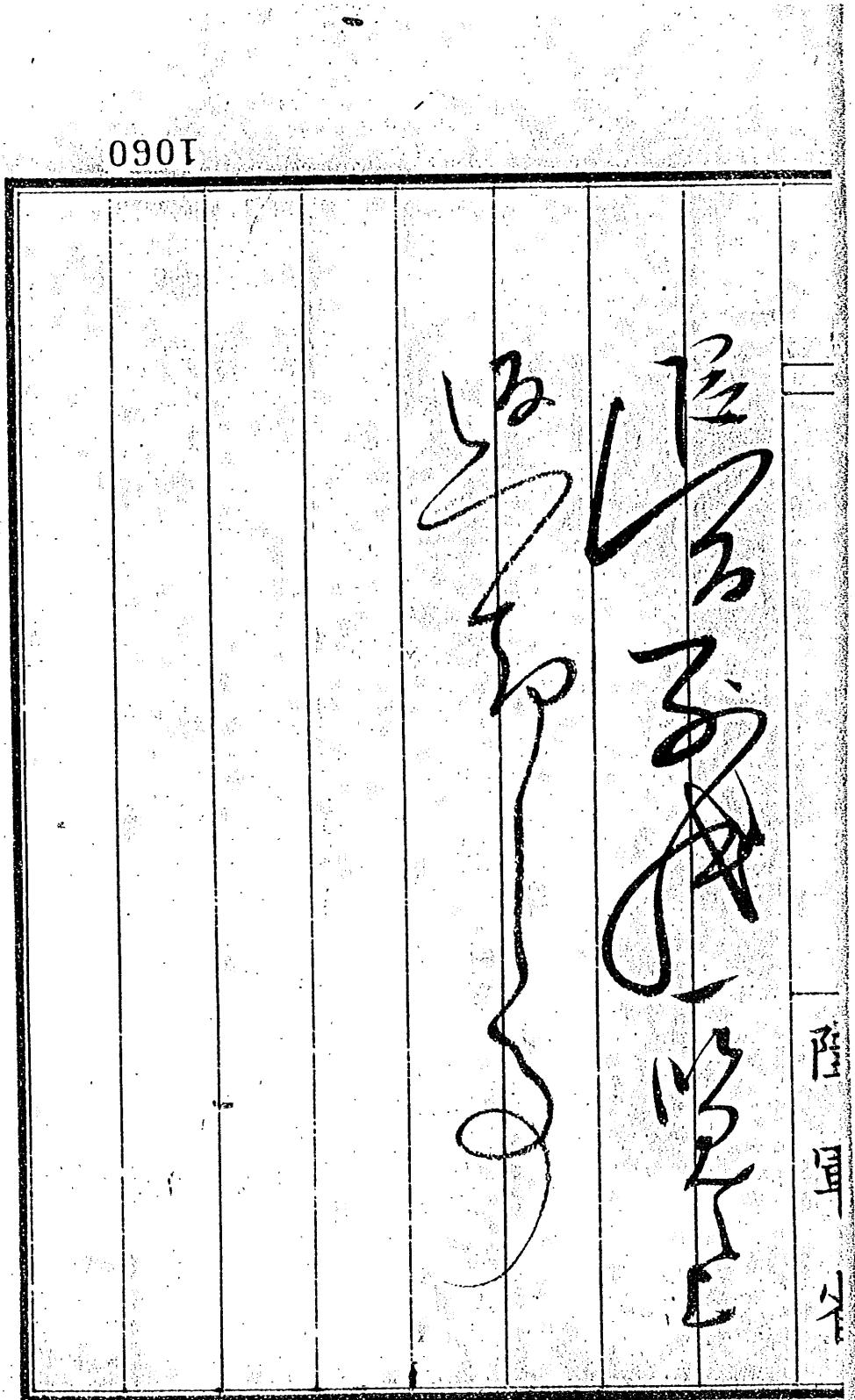


1059



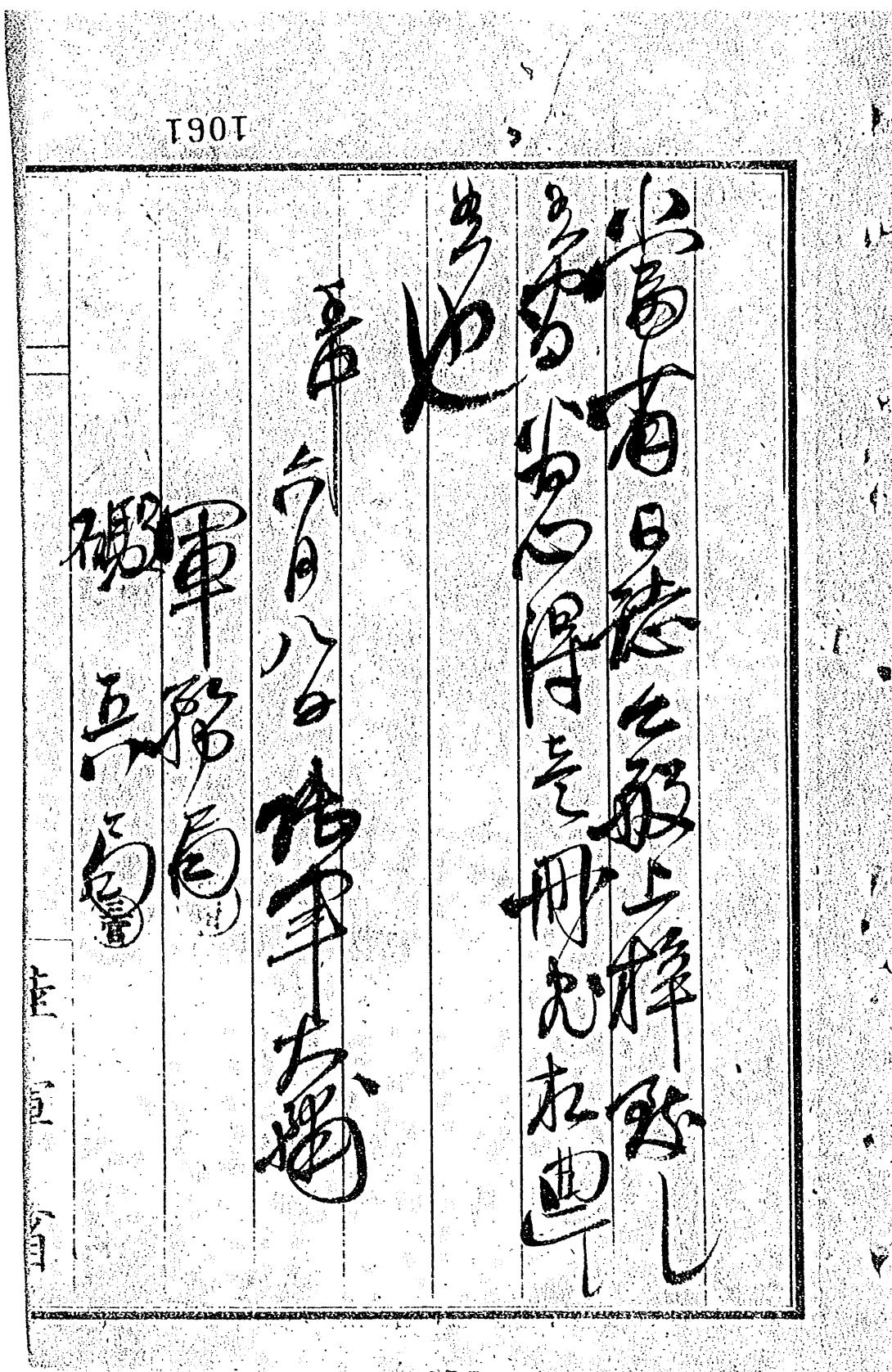
1060



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

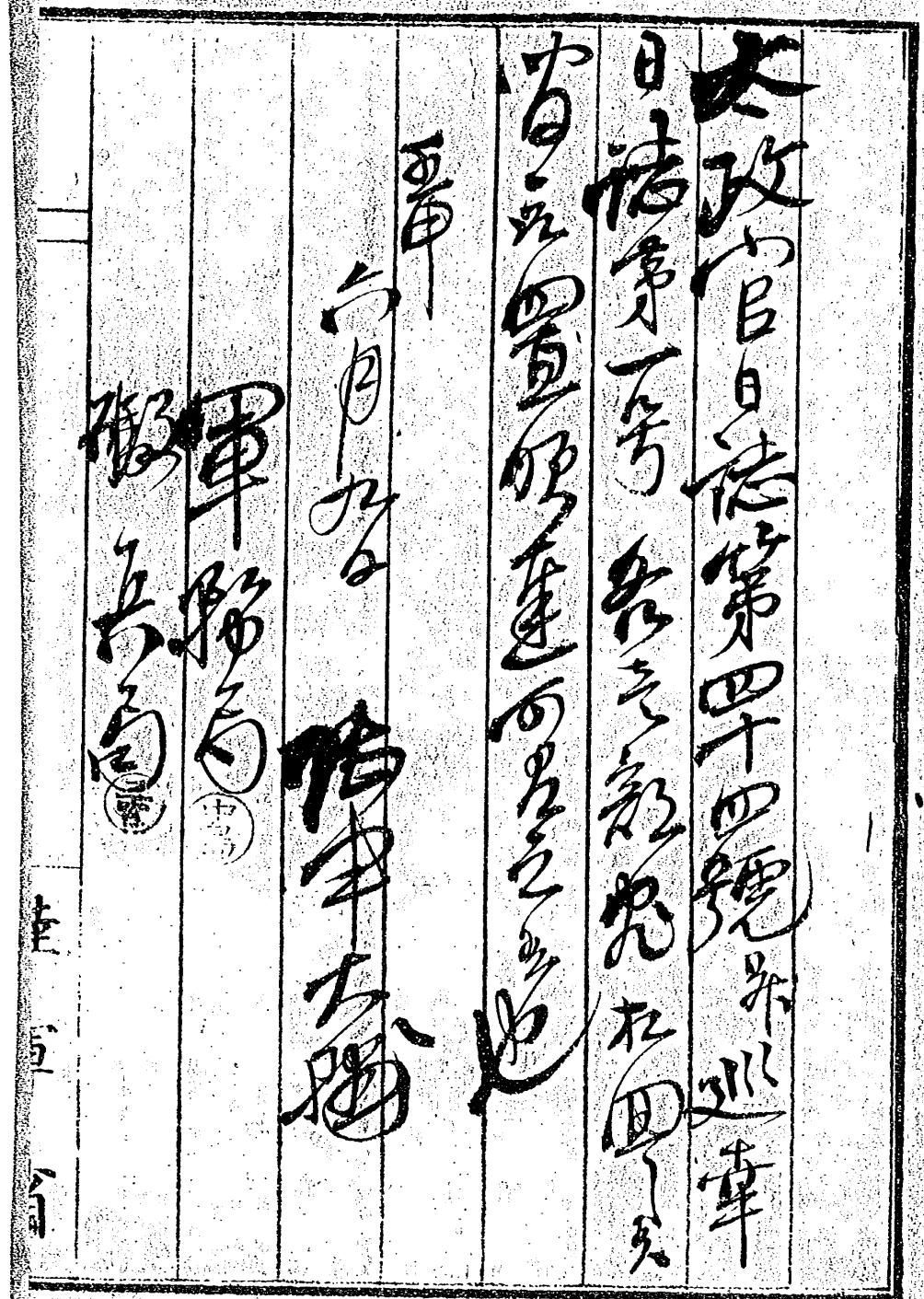


右昌	新五郎	三郎	多喜	吉之助	萬年
中平	多喜	左兵衛	左兵衛	徳岡	萬年
	島	枝	枝	紀綱	萬年

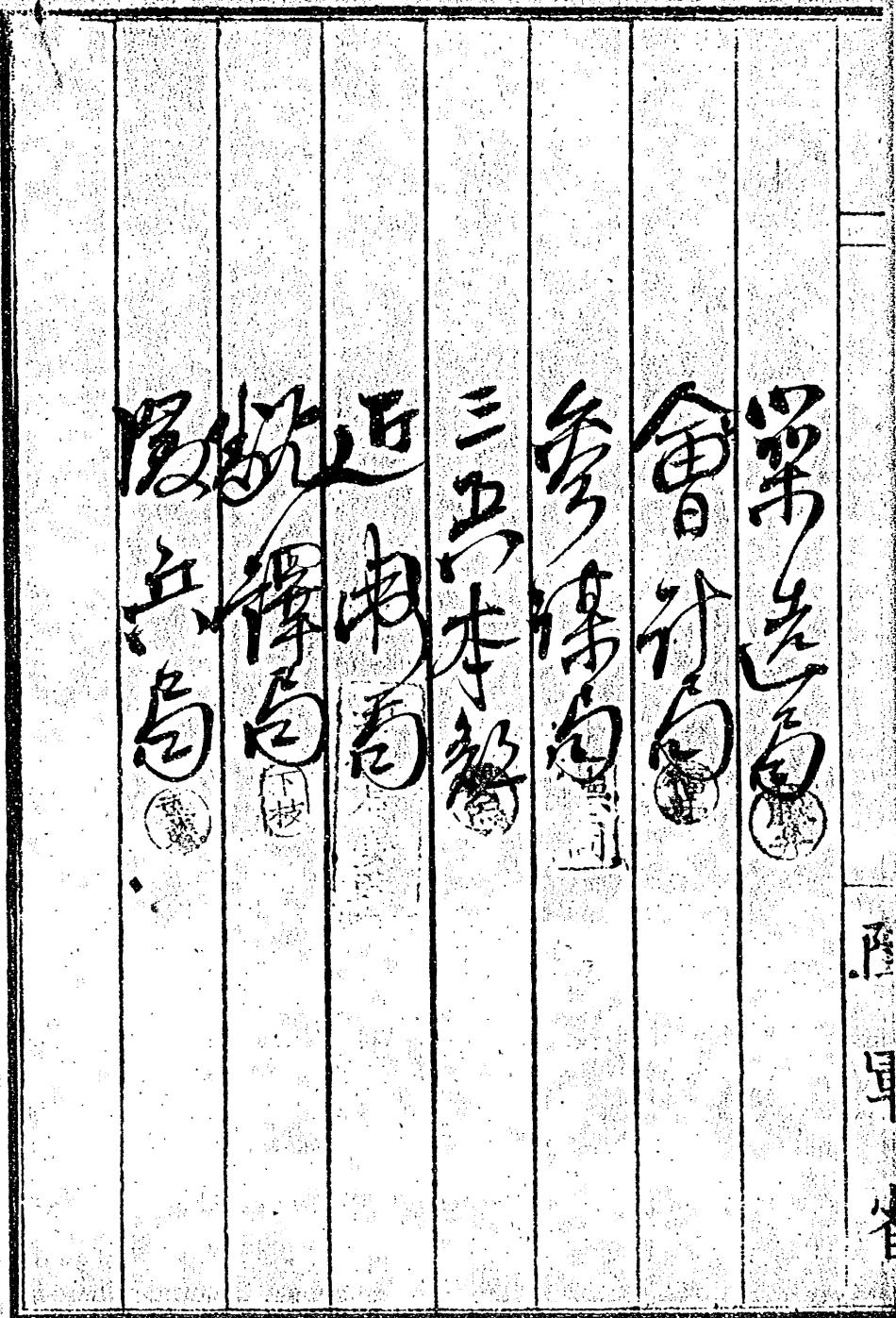
正

四

少



1064



教育省圖兵第一大隊

陸軍少尉山田義

伍志軍中尉

東京築地至

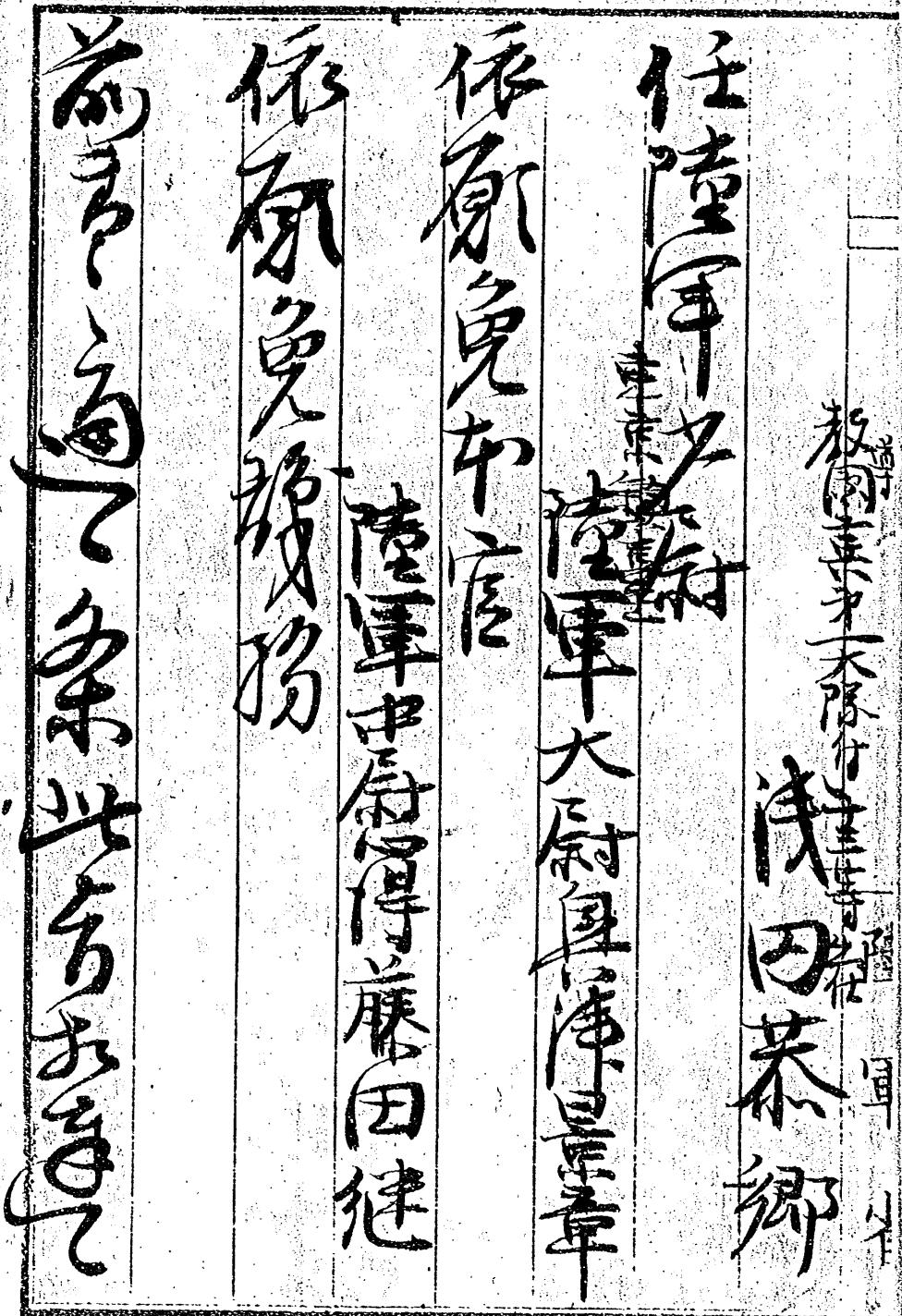
陸軍少尉山田義

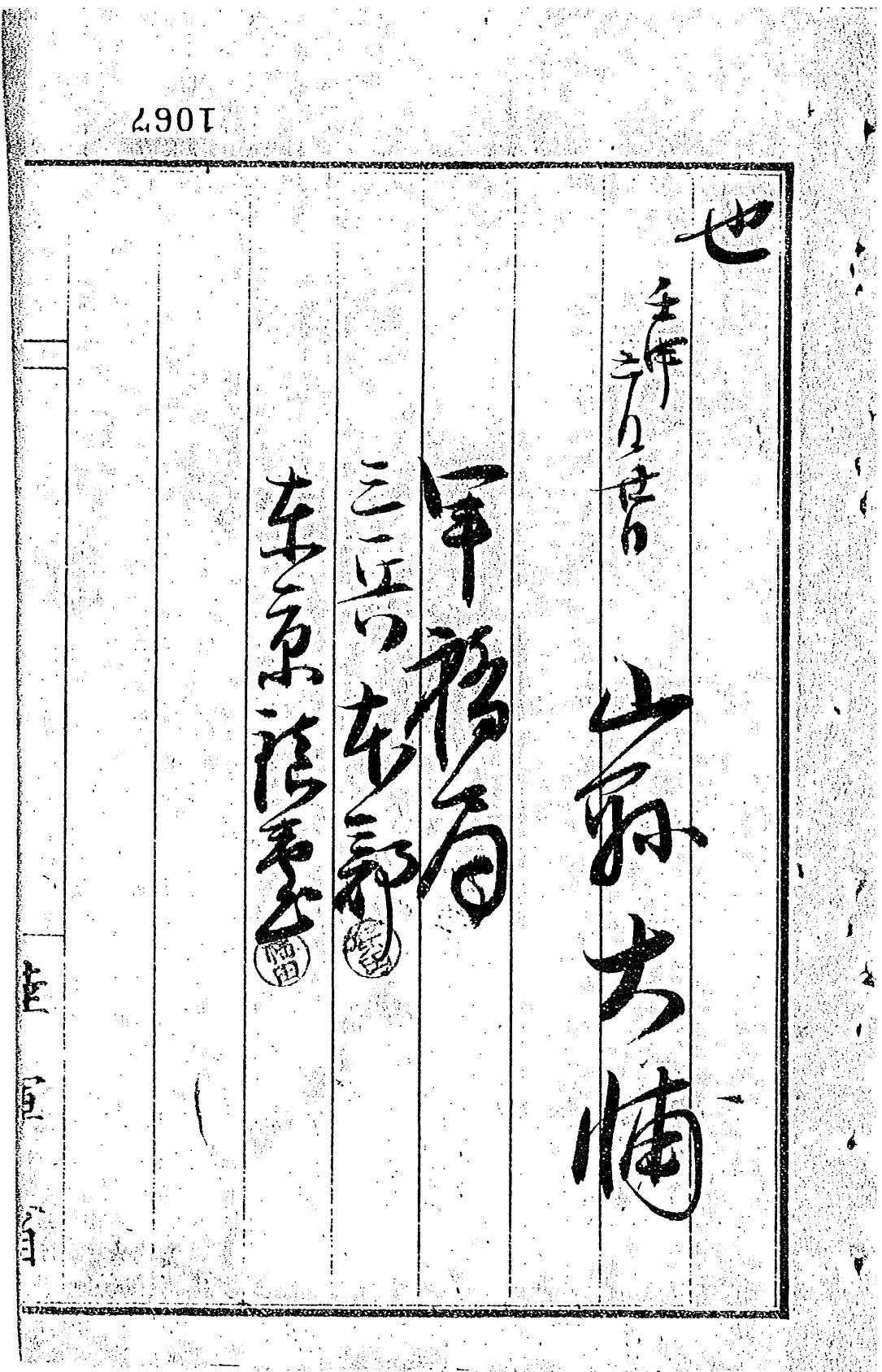
十二月廿七日吉慶出仕

三ヶ島義教存

冬青
金木精忠入

1065





鎮西鎮吉至出張

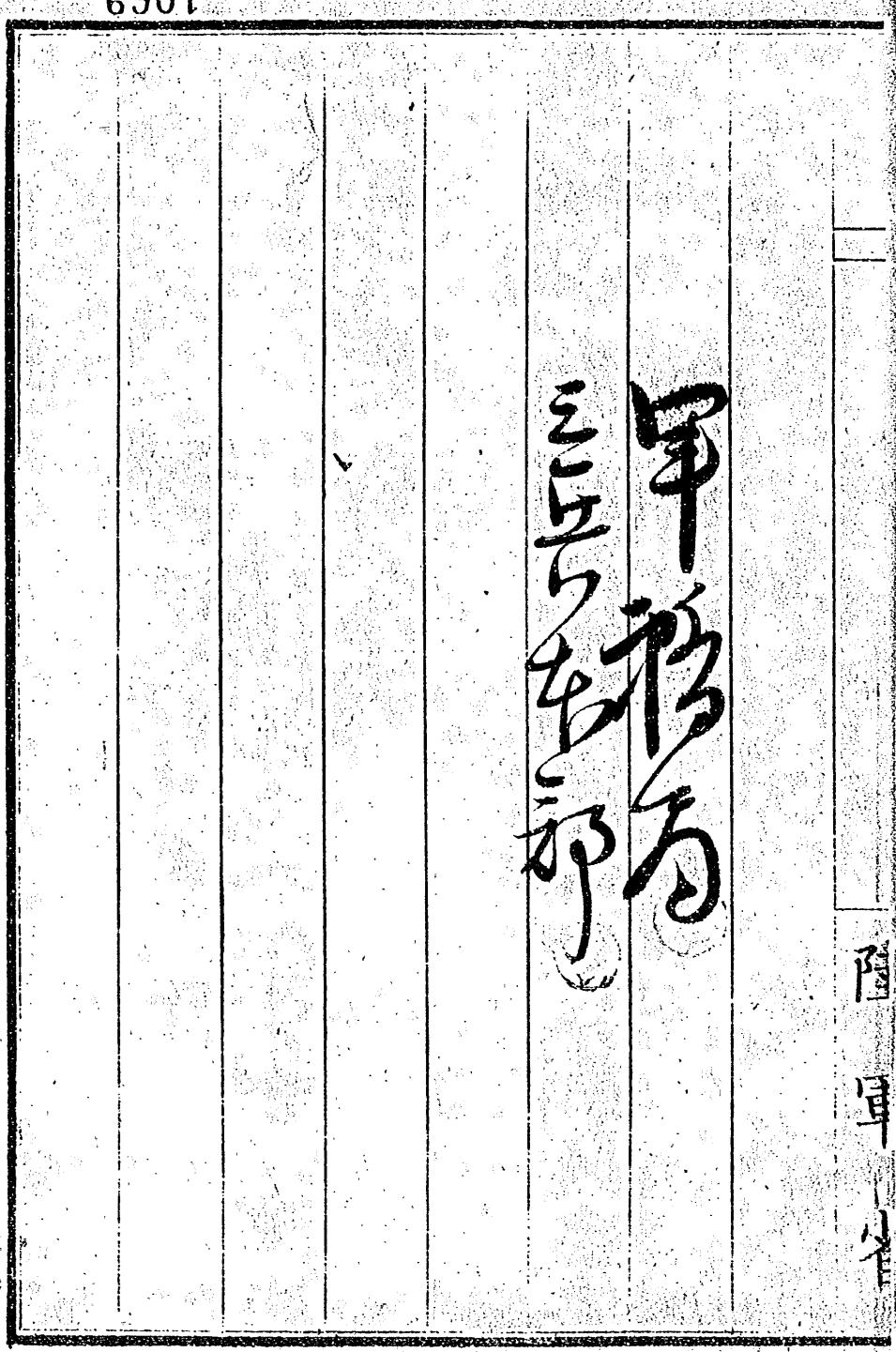
陸軍准尉早田秀興

依頼免役預

久留米五三三
年正月廿九日

年正月廿九日
大内

6901



国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

作
章 東 年 金 國 稲 庫 宮 地

被
多 之 芳 須 別 紙 之 用 お 稲 之

七
多 之 用 は 稲 本 お 稲 之 用 お 稲 之

茅
多 之 用 連 緯 本 之 用 お 稲 之 用 お 稲 之

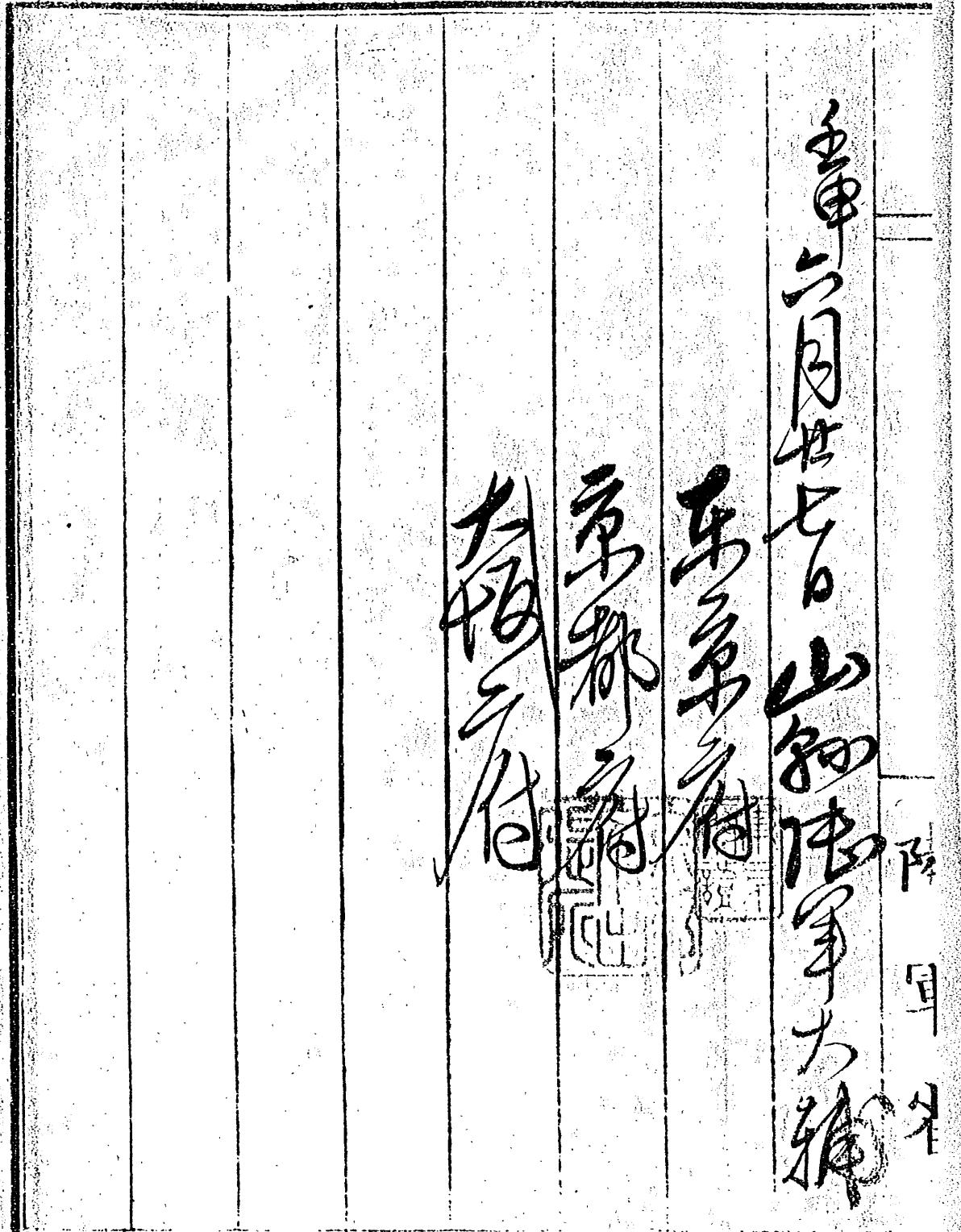
多 之 用 連 緯 本 之 用 お 稲 之 用 お 稲 之

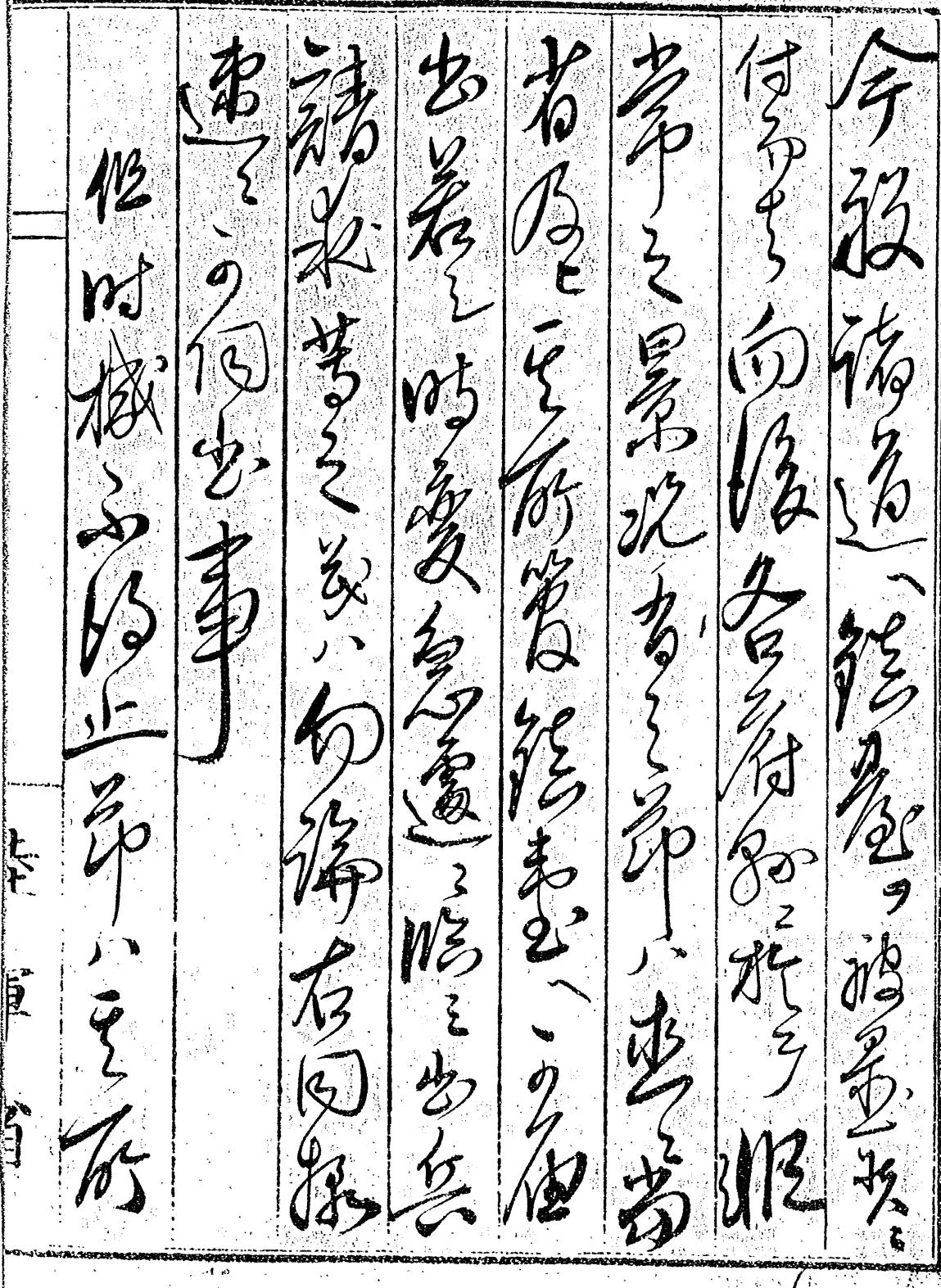
多 之 用 連 緯 本 之 用 お 稲 之 用 お 稲 之

多 之 用 連 緯 本 之 用 お 稲 之 用 お 稲 之

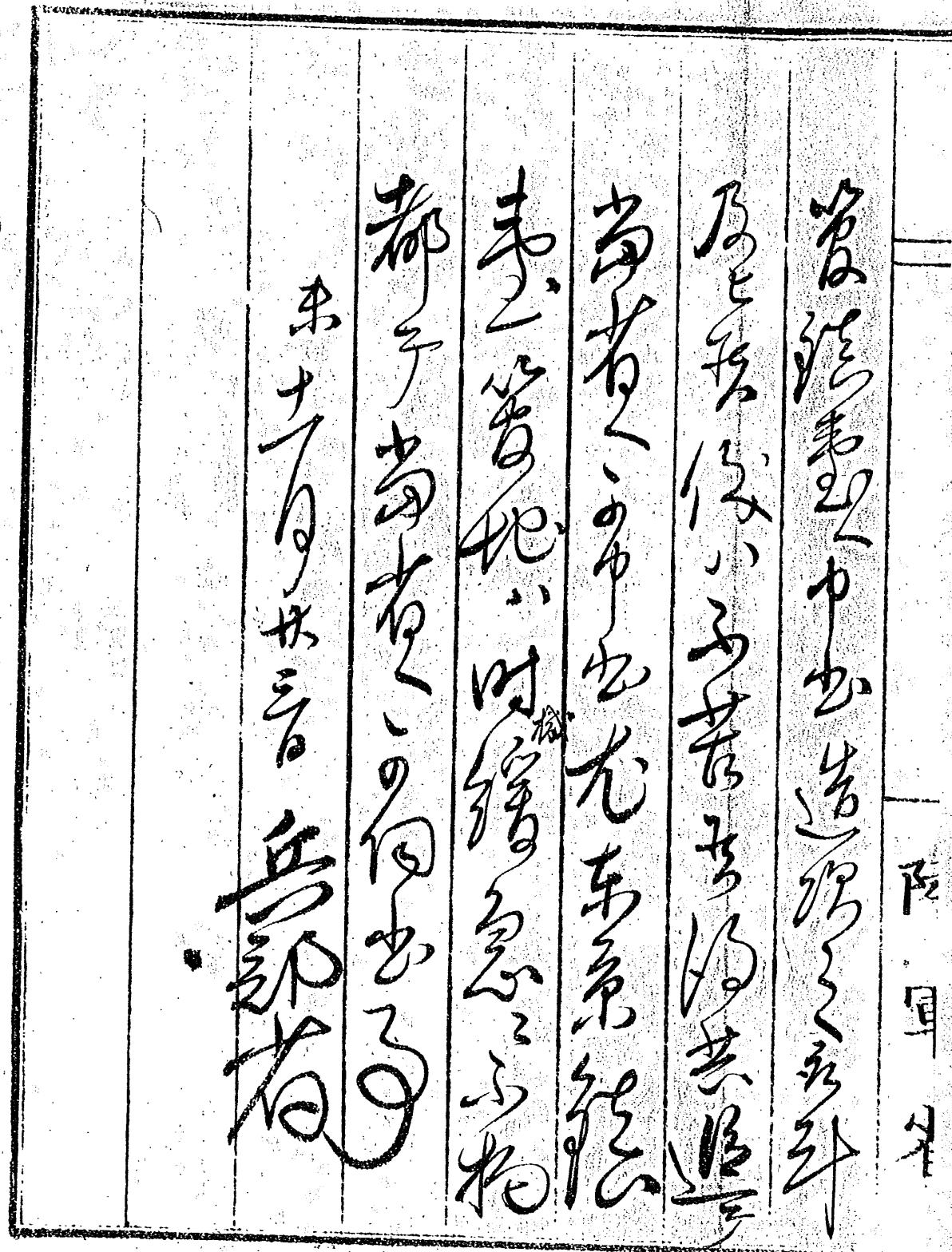
多 之 用 連 緯 本 之 用 お 稲 之 用 お 稲 之

T201





（参考） 本稿は元治元年（1868年）のもので、その内容は明治維新の初期を反映する貴重な史料である。本文は、當時の政治情勢や社会状況についての記述である。



先般師範学校生徒撰
あらわき書布告事并常七條二

十四人、生徒三十九人通
至るうちの件

主申前事文部省

一、生徒、和漢通例、まつ及
御子と漢字年號二十歳以上
者タルへシ故に成りケ往來ヲ

ムヘキ事

但、紙鹽入り授業件ムヘキ事

右為山海經一卷

壬申七月六日

第九字
三十方卷入

陸軍大轉

兵時子

十一字
三十方卷入

軍

審裁所

裁判所

中文字
三十方卷入

裁判所

造兵司

造兵司

中文字
三十方卷入

造兵司

武庫司章

武庫司

中文字
三十方卷入

武庫司

造兵司

造兵司

中文字
三十方卷入

造兵司

1075

陸

軍

備

西条太政官日誌第十四号

延享日誌第一号相田吉右衛門社

市用掛り之外乞御ツ引取、うるう

貳百七十四号

太宰府社と同様宇摩神社

佐久間

中川又四郎

太政官

1076

教都省

少府少卿之主司御書院

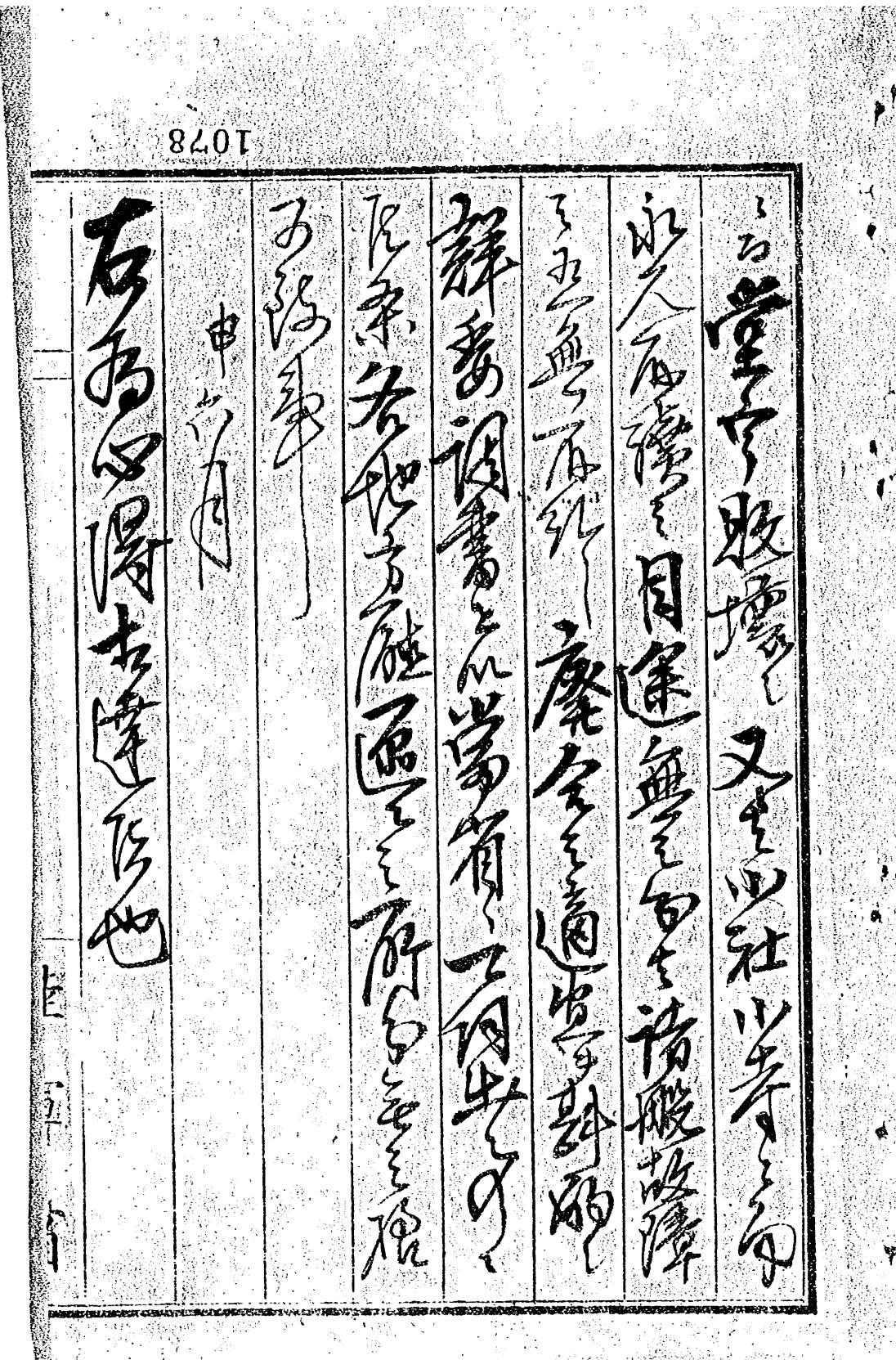
神祇寺院主條等事處由
少府少卿教都省一主司御書院

四萬石出主事主司御書院

多江主事主司御書院

多兵衛社殿御書院或乞通籍無往

820T



正 甲 乙

午年六月廿六日

陸軍少將

陸軍兵學總監官印

ナナ字武廣ヨクジハキニタニオイウサ

軍医官印

ナナ字武廣ヨクジハキニタニオイウサ

陸軍裁判所

ナナ字武廣ヨクジハキニタニオイウサ

造兵司

ナナ字武廣ヨクジハキニタニオイウサ

武備司

ナナ字武廣ヨクジハキニタニオイウサ

招魂社正氣印

二字軍醫察ヨリ到来
同三十日造兵司送達

八月十四日布告

620T



太百七十立号

伴物

神官始大納神社向之御事

久里尾信尼冬之清少若事

主事六月十六日太政官

太百七十立号

源危後玉之御事

海之方西又自今人成一段

西園寺

高麗文

壬申ノ内ナニ日大汝庄

左中百七ナセ名

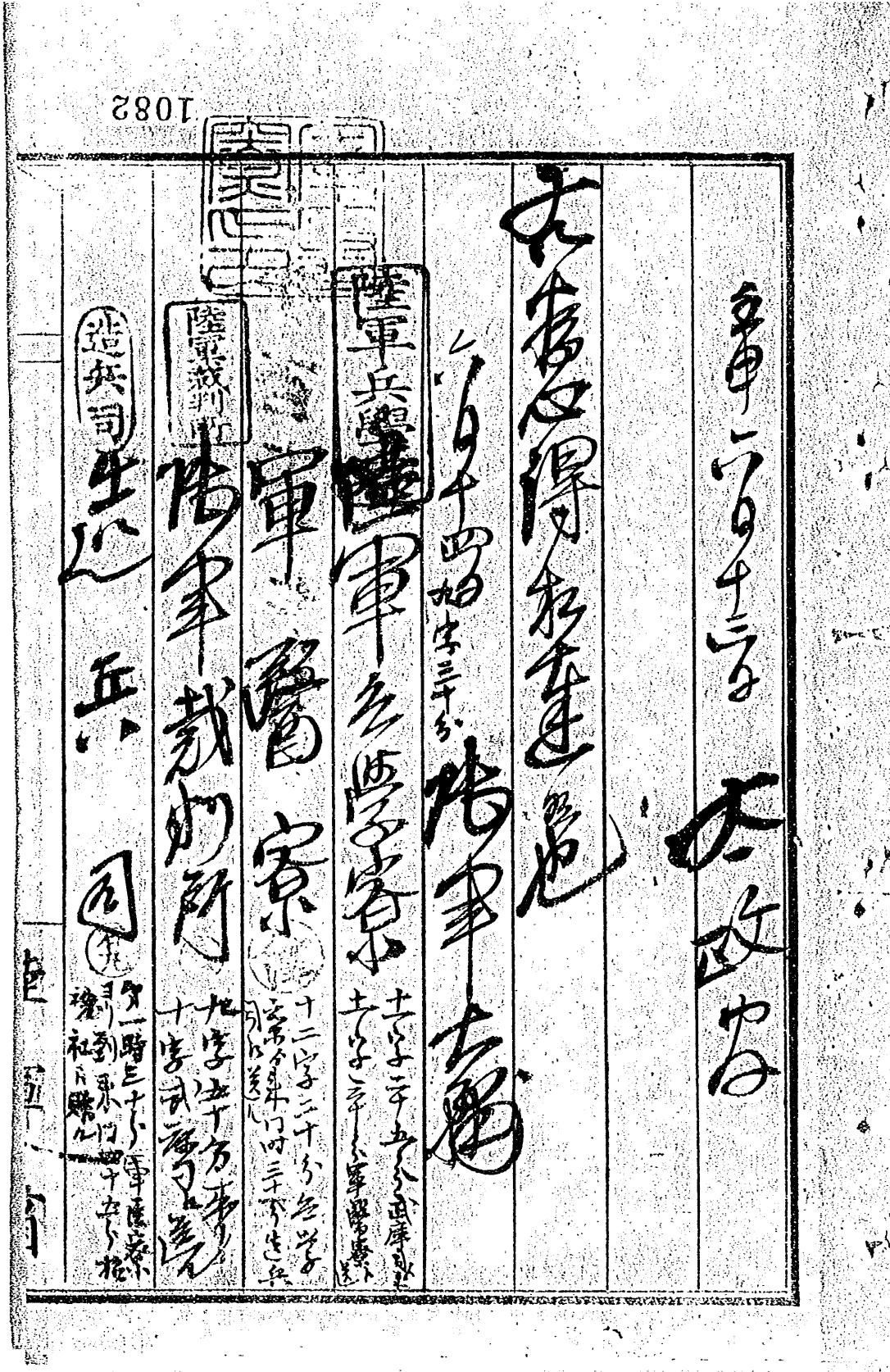
神社參詣之輩自序死葬

ノヨリ多者トモシテの日ノ之の

本件事

但脇毛之者怪お之の在

又得事



武庫司

庫司

十宇教判所不
字造兵司ヨリ到來

出云守
居現江戸城

二字造兵司ヨリ到來
同奉す秋史局臣宣直

ノリナセ

右多百、千弓

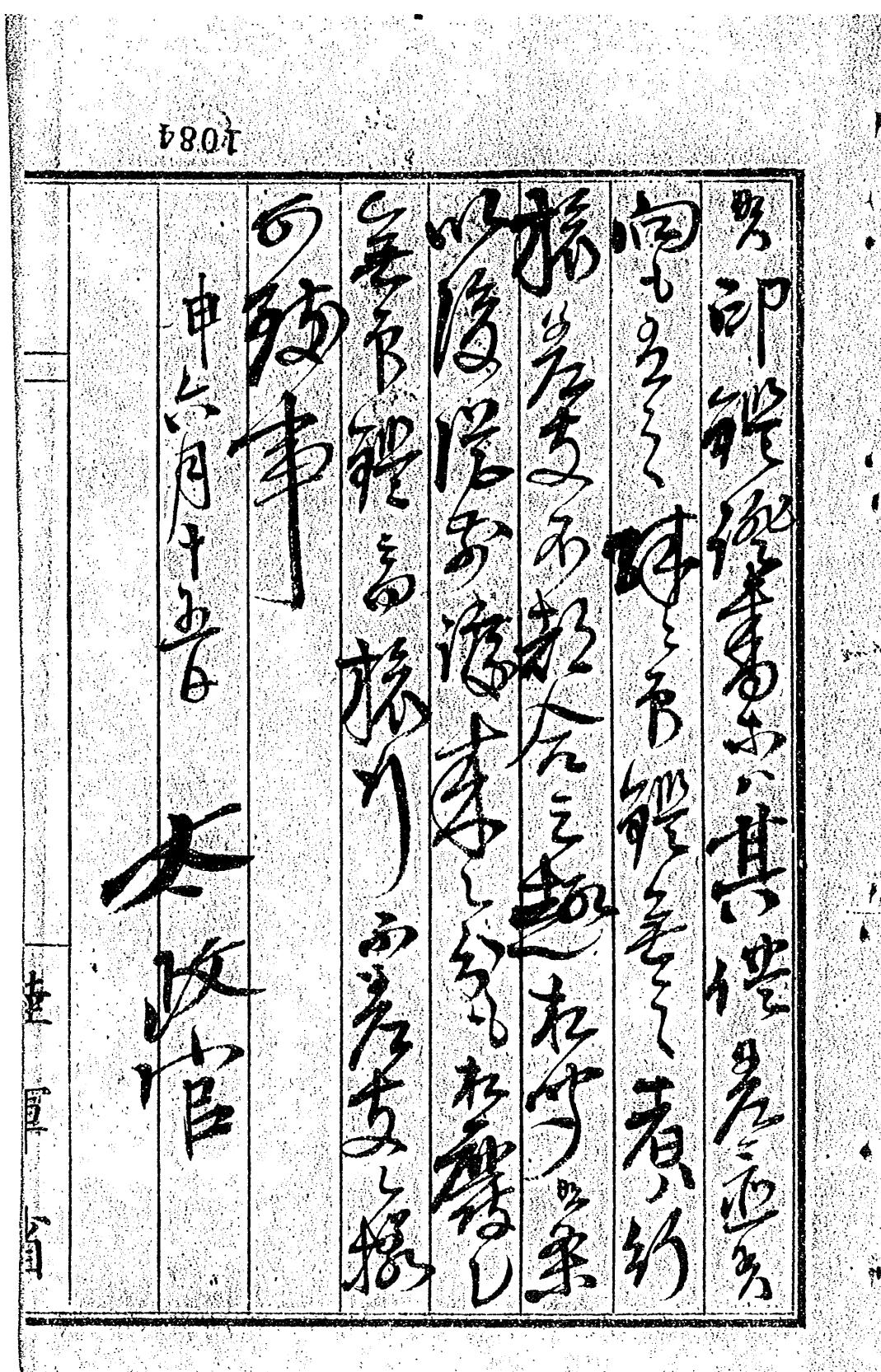
弓馬筋刀三省御九三弓去

年未七月半止多々各

官機金又二所弓人芳方弓束

180T

西國年



西

東

北

南

1085

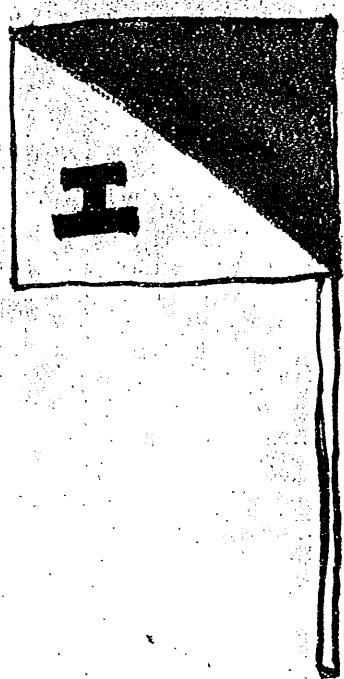
西ノ有下限量音ナキニヒル
東ノ有上限量音ナキニヒル
萬ノ庫移行の致多シル
地ノ内物ニ移行所ナリ共ノ亦
可也トガテ其ノ事ナム都度之を
移行之生移行直多也

測量司

単六月

1086

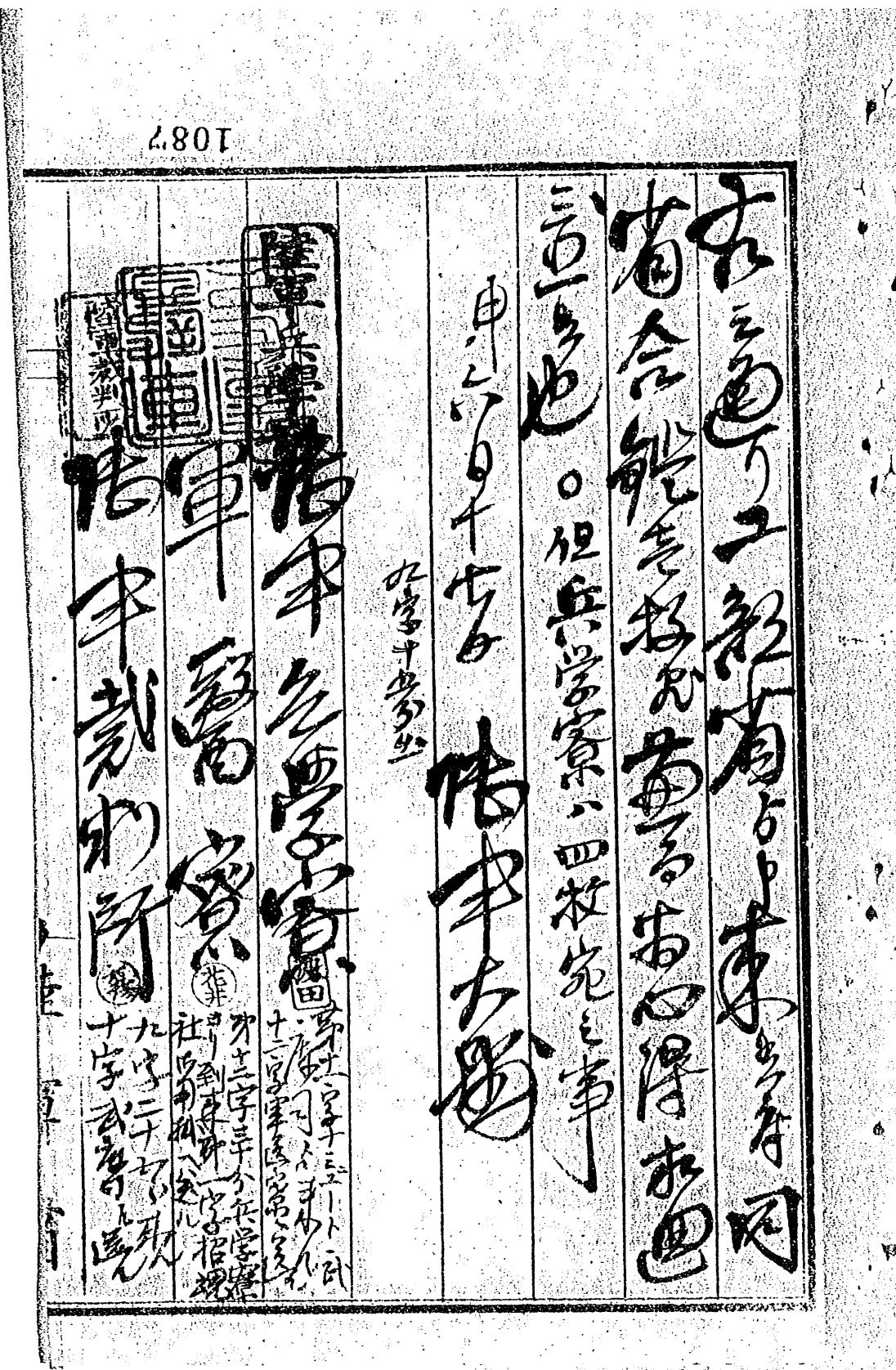
合艦



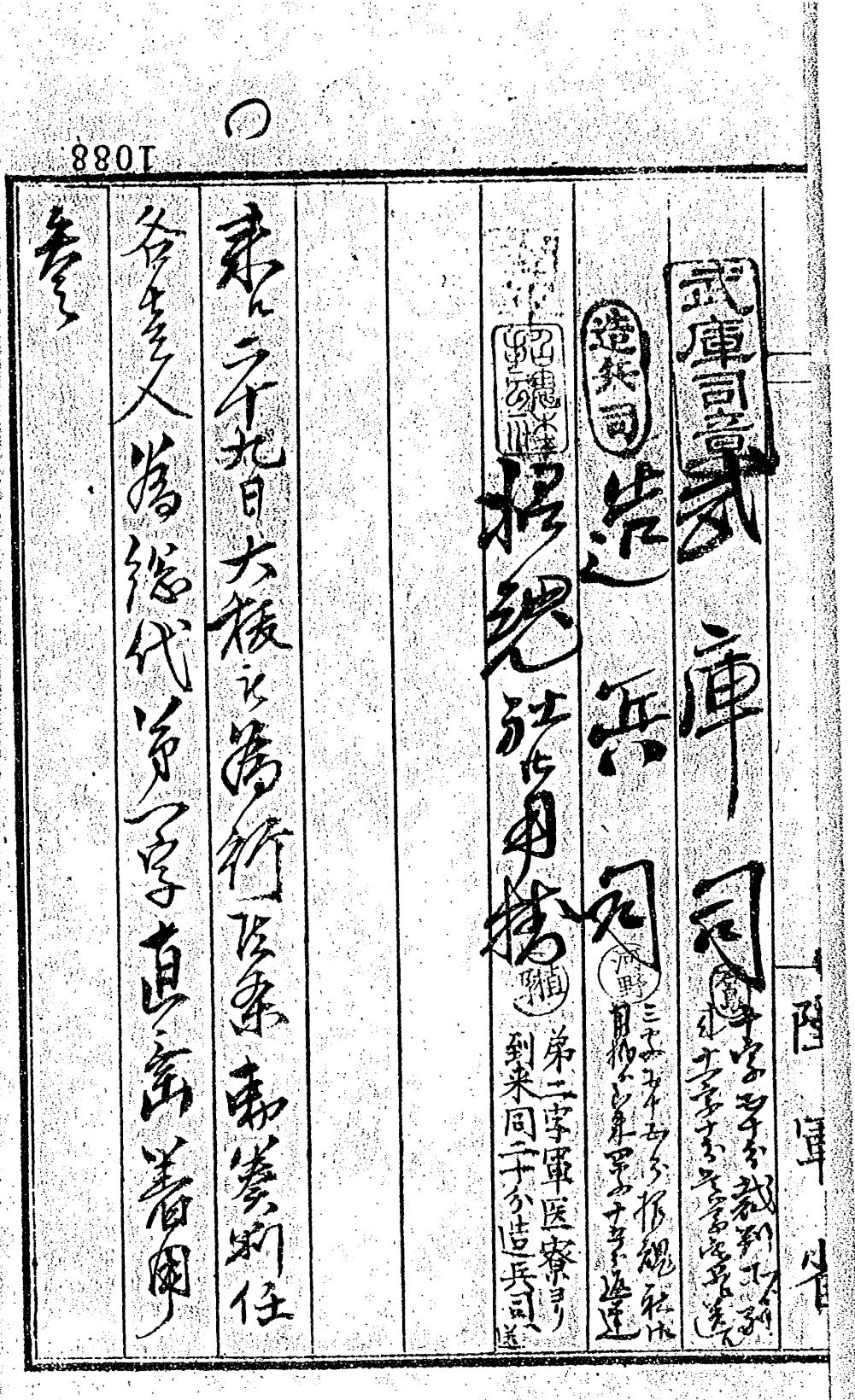
国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



8801



朝子主之也

千車六百石

式部寮

左衛門牛口諸山官給

統治西蕃裡別中省二別閩統是市
場之限自今也通貿易取極奉

一品花是市場於此免許商人之釐

統治羌賊等類外國人買之役

徵銀四萬兩至官給聽於商嚴重

四月六日

兩國一旦營繕、買上貨、添置、出賣人、
不相應、賣主拂之、若無同種、宜歸於何
設兩方、
不相應

但乞將商令人等、買入賣出者、生熟、
之真數、著之、是後、是前、陽、陰、
多出、審署、不、受事。

重六百三日 太政官

右百六四

1090

大藏省事驛角寧自今一等審

形宣之臣

甫六日奉

太政官

紀伊國答鳴燈兩臺落成有鑒者謹啓
署方向案少少通之在所為此得幸甚

乃正也

甫六日奉

山鹿之鄉此情

1091

主
五
首

西
暦
四
月
一
日

航海者 布告

管
轄
鴨
燈
臺

一日在政府布告ノ和泉瀬戸管轄鴨燈臺

第三等燈明治四
設ケ明治廿年六月二十七日

西暦一千九百零一年四月一日
新曆

日出ニ至ルマテ點燈ス

一管轄鴨ノ地位ハ和泉瀬戸ノ東偏ア

一燈臺ノ位置兼燈明ノ光景ハ尤モ詳

記スル者ナリ

明治廿五年五月廿二日

西曆一千九百零一年六月七日
大英年次

工部省専局燈臺寮

工部省三等出仕兼燈臺頭依附常良

一答ケ鳥燈臺ハ和泉鷲戸ノ答ケ嶋ノ極西ニ

建置シ以地ハ北緯三十四度十六分四十秒^{エジテ}

主
旨
旨

1093

英國グリニギヨ東經百三十度三十分

富ル

一燈臺ハ術影石造テ燈籠ノ中央マテノ

高ナニ丈壹尺ナリ

一燈眼ハ第三等不節白色也テ海面二百

四十三度即南十度東ヨリ西ヲ廻リ北ニ十

二度東マテノ方位チ照耀其他ハ蔽陰

ス但シ真方位ナリ

一燈火ハ高ア海面ヨリ二十丈ハ尺シテ其の光

綠ノ達スルト元十九里英海ノ際船舶ノ

甲板上ヨリ見エ

築造方補貞

ステルリゾグ、フイスレユル

石舟子の舟遊記也

壬午八月廿日
舟遊記也

肇寧之學之登聞
本草上卷之序

肇寧之學之登聞
本草上卷之序

軍医官署

幕末年止付近

醫事司告示

造兵司告示

武庫司

第三十六年正月

詔勅

第三十六年正月

正月方政令の従事官等の正月方政令

御内閣

正月方政令の従事官等の正月方政令

1096

内木七日

今般信奉一五
西多高根易る

冊之通う事無

頃布多立西多高根易る

有元年件根手原止

高得古上高根易る

申うりあ七日
内木七日

内木七日

内木七日

内木七日

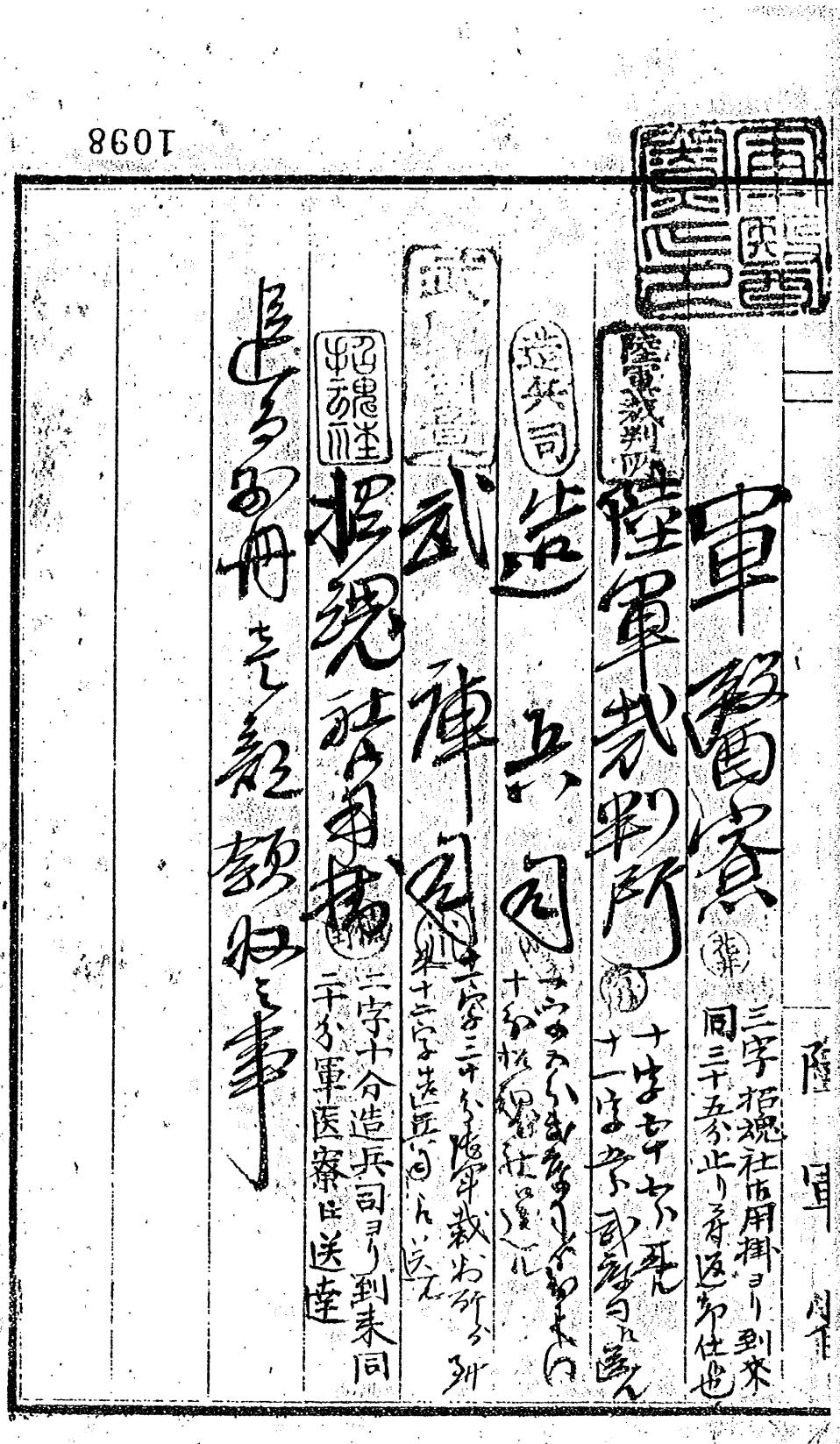
内木七日

内木七日

内木七日

内木七日

内木七日



大元百九十二号

近事自葬而行

少々多々白後とおもちがふる

神官俗流の因みに和歌

壬申
八月廿日

太政官

大元百九十三号

近事神官自葬の間、御内侍の御事
自人子孫子孫の御葬の御事

節、表^{シテ}、即^ハ諸事^ヲ取扱^ス
事

五申^ノ月廿日 太政官

大文百九十四号

東京ヨリ傳來ノ國事^ヲ其出前^ヲ附^シ陰

機^シ本達^ヲ其事^ヲ成^セ所^ニ至^ル十四

中^ニお事^ヲ知^ル所^ニ今^ノ能^ハス^レば^シ之

第^四回^ノ將近^{ヨリ}東洋^ノ事^ヲ通^ジ之

徳振國子家ア強ニ石狩五札綱
アマテ電機事務所役員ニ雨線機器
ガ幕省向此地ガ舞事

壬申ノ同廿日

太政官

大文百九十五号

諸侯有行軍之軍人軍屬脫免
之者久之府内於見高ちて政捕
總府即送之三地多行軍之總
陸軍省

奏本宣教、引官上護送可致此

右記事

壬申ノ同廿九日 太政官

扇官向利年馬古の
多田馬四員入料あり
走り在三多とあるの事之
事事吉日お手を乞也
略事方揚

陸軍省

乗馬支拂候事上納表

賃金

大尉 金五拾兩 中尉 同上 少尉 同上

上納

大尉 十ヶ月 中尉十二月 少尉十孝月

文武宣頃、魚藤着高湯、綠藤着
若鰐高湯、肩荷被也肩荷、高身

列文例、既準レ其所應之出河原

移更高達出下事

但文宣多著外附傳也傳有下事

以不直傳者多在文宣多取之傳

事

清角

何

列文例

其所應之出河原

傳有下事

傳有下事

傳有下事

傳有下事

何

日

列文例

其所應之出河原

傳有下事

傳有下事

傳有下事

何

日

列文例

其所應之出河原

傳有下事

傳有下事

傳有下事

生

三

四

